

第 10 回東郷地域協議会会議録(要約)

日 時 令和 6 年 1 月 30 日(火) PM 7:00 ～ 9:10

場 所 新城市役所 4 階会議室

出席者 委員 24 名 事務局 4 名

次第

- 1 あいさつ
 - 2 報告
 - (1) こども園の再編について
 - 3 議事
 - (1) 多くの人を地域活動に巻き込むためには
 - (2) 各柱ごとに意見交換
 - 4 その他
-

1 あいさつ

2 報告

- (1) こども園の再編について
 - ・市こども未来課からこども園再編・整備計画の素案について説明があり、意見徴収が行われた。

3 議事

協議会の会議録署名

- ・定数 29 人のところ 24 人の出席があり会議は成立している。
- ・会議録署名について、会長及び署名委員を 2 名指名し署名をお願いした。

(1) 多くの人を地域活動に巻き込むためには

(事務局説明)

- ・本議事についての昨年度地域協議会における検討結果について

その後、4 つのグループに分かれ、議論を行った。討議終了後、各グループのリーダーから議論内容の発表があった。以下発表要旨となる。

暮らそう

- ・有償ボランティアについて話した。地域の高齢化が進んできて、草刈りが大変になっている現状がある一方で、シルバー人材センターとの仕事の兼ね合いがあり、有償ボランティアの活動によりシルバーの仕事を取ってもいいのか、そういった部分の棲み分けをしながら、例えば、チップソー、燃料代、人件費、食糧費などで負担してあげられる仕組みがあると良い。
- ・シルバー人材センターに数万円のお金を支払うことが出来る方はいいが、年金暮らしでそこま

でのお金を支払うことが出来ないという方もいるので、そのような困っている低所得の方を支援出来るような仕組みがあると良い。例えば、草刈を手伝ったら、今度は家事を手伝ってもらえるような助け合いの精神を前提とし、新城地域自治区の取り組みのように、お手伝いチケットを発行し、お金のやりとりがない形を作る。また、草刈でケガをするなど補償の問題も出てくるので、保険にちゃんと入り、事務局を置き管理し、お手伝いのメニューも魅力のあるものにしないと、しっかり定着しなかったり、本当に必要なものにはならないと思うので、魅力のあるメニューを皆で考えていきたい。また、今のご時世では、詐欺もあるかと思うので、そういったところも地域の中で証明出来たり、確かめ合うなどして、防いでいけたら良い。

◎主な意見

会 長 多岐に渡り色々と意見が出たので、これを次年度に生かせる方向性を考えたい。

守ろう

- ・多くの地域や人を地域活動に巻き込むために、例えば、東郷地区でどんな地域活動があるのか皆分からないので、もっとPRした方がいいのではないかと。その中から、新規の取り組みを開拓していけたら良い。ただ、やはり活動をしていく人がいなければ、なかなか話が進められないので、地域協議会が地域活動をやりたそうな人を見つけていったらどうか。
- ・他の話題として、休耕田放棄問題について今後この地域協議会だけの問題ではないけれども、より深く取り上げて考えていく必要があると思っている。また、先ほどから有償ボランティアの話があったが、私が最近知ったのは、東栄町で「お互い様会」という取り組みがあり、無料の活動ではなく、1時間に200～300円ほどの対価をもらい、高齢者宅に伺って、困りごとがあれば助ける仕組みがある。

◎主な意見

会 長 私自身、昔区の総会の中で地域協議会の活動報告をしていた。それだけでどれだけ効果があるかは分からないが、出来るだけ皆さんも地域に対してそのような機会があったら伝えてもらうこともPRの1つだと思うので、よろしく願いたい。

育てよう

- ・東郷ではたくさんの活動が展開されているけれども、どうやってその活動を地域に伝えていけばいいのか、という知らない人が多過ぎる。知らない人に伝えていくためにはどうすればいいのか。まずは活動を知ってもらうことで、興味がある人を巻き込むことも出来ると思う。中には行政区を超えた繋がりを持って活動されていて、新聞社を呼んだりとか、色々な広報活動をされているので、そのように拡散力のあり新しい発想で地域の人にまずは知ってもらうことが大事である。委員の皆さんは、新城市を良くしたいという郷土愛を持ち、地域協議会に入っているとは思いますが、一般的には自分の生活以外に1歩踏み出して活動してみようという思いを持つ方というのは、少数なのかもしれない。そういう人たちを巻き込むというのは本当に難しいと痛感している。例えばソーラーパネルの問題にしても、区内でもどんどん増えているが、本当に自分の家のそばに来るまで動き出せない。やはり、どこかで他人事というところがあるのではないかと。以前に自分の家の隣接地に440枚ぐらいのパネルが来るという計画があり、それだとどんどん新城の風景が変わってしまうと思い、やっとな腰入れて反対運動をしている。や

はり耕作放棄地の問題にしても、それが自分事として、腑に落ちないとなかなか動けない。

- もう一つの意見としては、今行政区の中で、人がだんだん少なくなってきていて、人が少ないのにお役はたくさんある。行政区の中で、区長、副区長、公民館長など様々なお役があり過ぎて負担が大きいので、少しずつその行政区の枠を解体し、負担を分散させながら、このような地域活動に出れるような余裕を持たせる必要がある。だんだん年齢が上がっていくと、1年の内区長さんともなるとほぼ毎週何かに出なくてはいけないということになってくる。そろそろ、はっきりと誰かが、例えば、私は横川だが、横川と出沢と浅谷が合併するとか、そのように身軽にしていって方がいいのではないか。
- 地域課題を稼いで解決するというのは本当に難しく、なかなか儲かる仕組みを考えるのも苦手だし、今自腹を払ってやっているような団体もある中で、自分も農業をやっているけれども、なかなかビジネスモデルとして成立していない。ビジネスとして成立していないので新しい人が入ってこない。自分の息子にこれをやれと言えない状態。普段の生活プラス何か儲かる仕組みをこれから作っていきたいと思うが、どうしたらいいかわからない。

◎主な意見

会 長 これは生涯の課題となると思うので、皆さんも頭を使っただければボケ防止にもなる。意見があつたらどしどし言ってください。

学ぼう

- 多くの人を地域活動に巻き込むためにはというテーマは、少しざっくりとした課題かと思う。昨年度も同じような話題で議論し、その際に出たこの3つの提案も、これまで何ら一歩も進んでいない中で、今これをもう一度話し合ったとしても、同じような意見しか出ないだろうし、何を考えていけば良いのかという状況下で少しずつ考えた。そもそも地域活動とは何か。お祭りや消防団も地域活動だと思うし、老人クラブもそうだと思う。ただ昔は当たり前で地元の人が参加していたそういったものに参加しない、参加出来ないのではなく、参加しなくてもいい時代になってきているような気がする。そんな中で、子どもを巻き込んだら親も参加するということもあるが、地域活動に巻き込めていない。地域の中には、人を巻き込むのがとても上手な人がいるが、そういう人たちが100人いたら、地域は活性化するのではないか。では、そうなるためにはどうしたら良いのかというと、人を巻き込み引っ張っていくことが出来るリーダーを育成するのが良いのではないか。ただ、逆にそのリーダーを誰が育成するのかという堂々巡りな話になってしまった。この地域活動交付金についても10年前には予算オーバーとなるくらいの申請があつたのに、だんだん減ってきた。それはなぜだろうと考えていたのだけれども、結果最初に始めたリーダーたちが高齢化して行って、それを引き継いでいく人がいなかったということもあるかもしれない。やはり、ずっと活動が続けられるようにリーダーを育てていくことが出来ていないと思う。

◎主な意見

会 長 リーダーを育てるということだが、リーダーになりそうな人がいたら上手におだててください。そうすれば、リーダーを育てていくことになると思うので、皆さんおだて上手になっていただきたい。

(2) 各柱ごとに意見交換

地域計画の5つのグループに分かれ、次年度に引き継ぐための議論を行った。討議終了後、各グループのリーダーから議論内容の発表があった。以下発表要旨となる。

暮らそう

・家に閉じこもりの高齢者が外に出られるように、公民館を使って活動することの検討をしてきた。その中で、家に閉じこもりがちな高齢者や子どもなど全ての人に対し地域の公民館を使って、気兼ねなく集まれる場所づくりと、地域のためにそうした活動を行う団体の立ち上げサポートをしていく組織を作りたいということで、地域協議会の暮らそうのメンバーを中心とし、東郷わくわくコミュニティという団体を立ち上げ、今回の地域活動交付金の申請をした。まずは須長と八束穂と矢部で、公民館での活動をしていきたいという声が上がっているため、各団体のサポートをしながら、社会的孤立の解消を目指す、ということをしていく。来年度活動をしていく中で、再来年度に向けて、この活動を周知し、うちの地区もやってみようという声を吸い上げ、活動を広げていきたい。

守ろう

・この一年を振り返ってみると、AED、ごみ集積場の改善課題、ソーラーパネル、イモリの問題、ヘルメット着用のこと、通学路のグリーンベルトの改善、その他色々話してきた。振り返ると特にヒット作までいかなかった。活動全体では、今年度の最初の勉強会で説明があったように、1年を通してよく分からなかったというのが共通した意見だった。地域環境、人を守る、防災、この3点がキーワードである。その中で、地域環境では、ソーラーパネルの話が非常に多く、ある区には、大阪、神戸、千葉と3社から具体的なソーラーパネルの誘致の案内が来ているというのが実情で、新城市のソーラーパネルの現状についても非常に危険な状態にあるということも認識している。次年度に引き継ぐ具体的なテーマの提案までには至らなかったけれども、地域協議会を通じて、新たな切り口を見つけステップアップ出来るように考えていっていただきたい。

育てよう

・育てようではそれぞれ独立して各事業団体がそれぞれの活動を深めているので、その活動を来年度以降も続けていくかどうかはまた聞かなければいけないが、だんだんとその活動が実を結んできているような気がする。また継続して行ってもらいたいと思っている。今年度の育てようでは、事業化できるような何か稼げる新しい仕組みや事業を考えるというお題のもと、1年間話し合ってきたが、これといったアイデアもなく、今度休耕地を考える会という新しい動きが出てきているので、来年度どんな動きをしていくのか、見守り応援していきたい。1年を通じ農業や耕作放棄地についての意見が多かった。耕作していないところが増えていっている。そこを何とか活用、省力化し稼げるものがあるのか分からないが、耕作放棄地をこれ以上増やさない方向に持っていったらいいが、なかなか良いアイデアもないので、次年度に向けてというのがまだまとまっていない状態だが、来年度に引き継いでいきたい。

学ぼう

・令和6年度は長篠設楽原歴史検定問題集の作成及び検定試験の実施を計画していて、今

既に問題集の作成に取りかかっている状況。検定試験は初級と中級を令和6年度に実施予定、初級は夏、中級は冬の予定。令和7年度には上級の問題集を作り、初級中級上級の検定試験を実施する計画となっている。

楽しもう

- ホームページの件については、来年度多くの予算をつけていただいたが、特例的な措置というところであるため、次年度以降は報告を聞きながら減額する方向で話していただきたい。
- キャラクターの着ぐるみについては、来年度試行的に1個作ってみて、検証を行い、改めて使用用途についてしっかり検討していただきたい。
- ケッターパークについても報告を聞きながら継続して予算をつけていく。ただし、市内の小学生向けに発信が出来るように、小学校に対しポスターやチラシ、それから出張体験会等が出来るような予算付けを検討していただきたい。
- 地域計画掲載の未着手テーマである、イベント推進については、歴史や自然の活用というところもあるので、来年度当初から柱を跨いでの検討が必要であるということと、東郷体育振興会などの活動団体と話をし予算付けをしていっていただきたいということを引き継ぎ事項とした。検討内容については以上だが、柱の人数が少ないので、次年度はもう少し柱ごとの人数配分を考えていただきたい。

4 その他

- ① 令和6年度地域協議会委員提出書類について（辞任届・推薦書・承諾書）
- ② 地域活動交付金審査資料の配付について
- ③ 関係人口創出セミナー・地域公共交通意見交換会について
- ④ 自治基本条例10周年記念イベント・防災セミナーのご案内について

【21:10 終了】